

風を感じて



緩和ケア病棟師長の
やま もと ひろ の
山本 洋乃

今年4月より6年ぶりに病棟師長という責任ある立場として緩和ケア病棟へ配属となり8ヶ月が過ぎようとしています。

質を問われる時代、緩和ケア病棟においても質の高いケアが問われています。緩和ケアでの質の高いケアとは、患者さまはもちろんご家族も対象としQOL(クオリティ オブ ライフ=人生の質、生活の質)とQOD(クオリティ オブ デス=死の質)をより高めることを目指すケアだと言われています。

より質の高いケアが提供できるようスタッフのスキルアップはもちろん多職種種間の隙間のない連携が図れる病棟でありたいと思います。

そして病床数が6床という日本一小さな緩和ケア病棟だからこそきめ細やかなケアを行うことができ、「ここに来て良かった」と思っていただけの方スタッフ一同協力したいと思います。

私自身まだまだ「ひよこ」な師長ですが、日々患者さま・ご家族の出会いに感謝しながら共に歩んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



緩和ケア病棟スタッフ



緩和ケア病棟多職種紹介



地域医療部緩和ケア科
たなか よしひと
田中 佳人

限界と可能性

人間は完璧ではありません。なので、人間のする事やできる事には、自ずと『限界』があると思います。もちろん、私が身を置いている医療現場に於いてもそうです。病気を治す治療にも限界がありますし、私がさせていただいている症状を和らげる治療にも限界があります。

しかし、人間は不完全な存在であるが故に、『可能性』も常にあります。私は考えています。自分には限界があり、無力な時も多々あることをしっかり認識して、謙虚な気持ちで、他者（患者さんやご家族、スタッフなど）の『可能性』を信じて、何かできる事を考えて、力添えができる、そういう存在でありたいと思います。



歯科衛生士
いわもと みちえ
岩本 巳千江

～お口から始まる出会いを大切に～

入院されたら早いタイミングでお部屋に伺い自己紹介をすることから私たちの関わりは始まります。患者さまには受診ができず義歯不具合のまま長期使用されている方やお口の渇きや免疫力の低下に伴う口腔のトラブルを生じている方も多く、一人ひとりの症状緩和につながるよう想いに沿って関わっています。口腔ケア後のすっきりした表情やそれを見られたご家族のほっとした笑顔は何よりもうれしく、口腔ケアの持つ力を実感すると共に早期での専門的口腔ケアや他職種と連携した口腔管理の重要性を感じています。今後も患者さま・ご家族との出会いを大切に、笑顔につながる関わりとなるよう努めていきたいと思っています。



音楽療法士
みやまこ ゆきえ
宮廻 幸枝

「心和む音楽」

緩和ケア病棟では、患者さま・ご家族に少しでも心穏やかに過ごしていただけるよう多職種との連携を図り、“音楽”を通じた関わりをさせていただいています。お一人、おひとりの“大切な思い出の歌”と一緒に歌い、聴いていただくと、自然に、みなさんのやさしい笑顔の輪が広がります。「音楽を聴くと胸がすーっとして気持ちが良いです。」「いつも楽しみにしています。」と“音楽の時間”を心待ちにしてくださる患者さま・ご家族の“心和む音楽”の提供に努めていきたいと思っています。



胃の全摘手術をして一年になりました。
緩和ケアの整ったみつぎ病院を希望してお世話していただいています。
在宅介護の負担を減らす為に、田中先生、看護師、リハビリの人々、栄養士、歯科の方々と一人の患者に多くの人に関わっていただくと共に、地域のボランティアの人々の接待に、家族ともどもどれだけ勇気づけられ、心が癒やされてきたか、感謝でいっぱいです。

平成29年9月10日

内田 君江

新スタッフ等紹介



社会福祉士
かもんどう せいじ
加門堂 誠司

私は、患者さま・ご家族が遭遇される問題等に対し、社会資源を活用しながら、個人と社会を繋ぐ支援を行っています。これからも、緩和ケアチームの一員として、その人らしい生活を送ることができるよう支援していきます。



理学療法士
ひらい よしあき
平井 佳晃

平成29年4月より緩和ケア病棟へ配属となりました。これまでの経験や私のリハビリが少しでも患者さまのお役に立てればと思います。そしてこれからも一層、患者さまやご家族から多くのことを学んでいきたいです。



看護師
とりい まゆみ
鳥井 真由美

この4月より緩和ケア病棟へ配属となりました。身体的苦痛だけでなく精神的苦痛も抱えておられる中で少しでも心穏やかに過ごしていただけるよう寄り添った看護をしていきたいと思っています。



看護師
いちじょう えみ
壹丁 絵美

平成28年10月から緩和ケア病棟に配属となりました。患者さまの最期の時に立ち会わせていただく中で、その一瞬一瞬に寄り添う事の大切さを日々感じております。まだまだ未熟ですが、ほんの少しでも患者さま・ご家族の支えになれるよう努めていきたいと思っています。



保健師
せはら えり
瀬原 英里

平成29年3月から緩和ケア病棟へ配属となりました。当初は、保健師としてここへ居る意義は何なのか模索する日々でした。しかし多くの患者さま・ご家族との関わりを通じて「生きること」「支えること」「悩み揺れ動く心」。そして、緩和は「亡くなる為に来る病棟ではないこと」等多くを感じとり、学ぶ機会を与えて頂いています。患者さまが歩んでこられた生き様に触れ、支えるご家族の力を引き出し、痛む体に手を添え、目で見て状態を判断し、心に寄り添う。看護の原点がここにあると感じつつ、患者さま・ご家族がその人らしく穏やかに過して頂けるよう、微力ながら務めさせていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



ボランティアだより

「ボランティア活動を通じて」

(ボランティア 舞田 紀子)

ボランティア活動をさせていただいていつの間にか15年。時の流れの速さに驚いています。

その間、病棟では多くの方が旅立たれ、スタッフさんの異動、ボランティアさんの入れ替わりもある中、ボランティア活動が力強く根付いてきている事は意義深く、また、喜ばしいことと思っております。

私は生け花を主体に、遺族会・病棟見学会のお手伝い、最近から病棟の飾りつけに参加しています。季節の花や四季折々の祭り事などの行事を生け花や病棟の飾りつけを通して患者さま・ご家族にお届けできる喜びを感じています。ホールに出られない患者さまもいらっしゃる為、いつの間にか枕元に一輪の花をお届けするようになりました。「いつも綺麗にお花を生けてくださってありがとうございます。他の病院では見られないです。」と心から喜んで頂き、励みになります。これからも私自身の体調管理をしながら続けたいと思います。

病棟のひとこま

病棟にも
春が
来ました



先生
頑張れ～!



明日は
晴れると
いいな～

素敵な演奏会

僕も
負けてられ
ない!



皆での七夕会

緩和ケア病棟基本方針

- (1) 病病連携・病診連携に基づいた在宅ホスピスと施設ホスピスをシステムの両輪とし、さらにボランティアなど地域全体で支える独自の地域に密着した緩和ケアシステムを構築する。
- (2) その人らしく充実した時間を送っていただくために、早い時期から在宅・施設において柔軟で継続的な関わりを持つ。
- (3) 患者さま・ご家族の満足と安心を得られるように、質の高い・心のかもったサービスの提供に努め、患者さま・ご家族の声や第三者評価などにより、ケアの質の維持・向上を目指す。

平成22年4月1日制定
平成29年4月1日改定

緩和ケア理念

- (1) 患者さまの生き方や意思を尊重した緩和ケア
- (2) 早い時期からの継続的な緩和ケア
- (3) 在宅および施設における総合的な緩和ケア
- (4) 保健・医療・介護・福祉の連携による質の高い緩和ケア
- (5) 地域に密着した地域緩和ケア

平成14年4月1日制定
平成29年4月1日改定

★ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

公立みつぎ総合病院

<http://www.mitsugibyoin.com>

〒722-0393 広島県尾道市御調町市124番地
TEL0848-76-1111 FAX0848-76-1112
緩和ケア病棟直通 0848-76-1328